

館報

庄内



庄内地区	
令和元年7月1日現在人口	
世帯数	6,964 戸
男	7,383 人
女	7,367 人
合計	14,750 人
発行 庄内地区公民館 (ゆめひろば庄内)	
電話 24-1811	
FAX 24-1812	

判断力、思いやり、的確な指示！
水害危機対応をリアルタイムで疑似体験！

6月15日(土)、「命を守るための備え」と題し、長野県生涯学習推進センター、長野県公民館運営協議会によるHUG(ハグ)避難所運営ゲーム)が、庄内地区公民館で開催されました。講師は実際に阪神・淡路大震災を体験され、現在地区防災計画等に焦点を当て研究されている田中健一氏。今回は近年多発する洪水被害をテーマに、避難所運営の難しさをゲーム形式でリアルタイムに体感しまし



兵庫県広域防災センター
防災教育専門員 田中 健一氏

冒頭で、報道では伝えていない実際の災害時の大変さをお話いただきました。改めて災害時の備えの大切さを実感すると同時に、その備えも災害時には不十分であることも再認識することができました。

避難所運営ゲームは避難所となる並柳小学校と筑摩小学校を想定してスタート。庄内地区の各町会別にチームを作り、講師の田中氏から指示される避難住民の状況を瞬時に判断し、的確に避難場所に誘導して行かなくてはなりません。また、河川の氾濫や土砂崩れ等、刻々と変化する地域災害状況も整理し揭示して行かなくてはなりません。そのため、リーダー(指示役)、避難者の誘導係、避難者リストの制作係、被害状況の記載係と、避難所での役割を明確にしてのチームワークが求められました。

田中氏から指示される避難住民は、認知症を患われた高齢者、透析治療をされている方、引きこもりの子どもさんを持つての住民、車で来られる住民、小さな子どもを連れたお母さん、後から合流する家



族...と、さまざま。立て続けに指示されるので、判断・指示・誘導がスムーズにできません。さらに地区内に孤立する住民からの救助要望も同時に入ってきます。時間がたつにつれ混乱するばかり。会場は、あちらこちらで大きな声が飛び交い、まさにリアルタイム感覚での避難所訓練となりました。

今回の意図は、「これだけ避難所運営は大変である」ということを体感するに留まっていってしまいましたが、これを契機に「的確な指示方法」、「思いやりのある誘導方法」、「正確な災害時報道方法」等、住



民が十分理解し、実際の避難所運営に役立つ訓練を定期的で開催することの大切さを考えさせられました。水害は地震と異なり、ある程度予想して避難行動できる災害ではありませんが、その反面その楽観が大きな被害をもたらしかねません。常に危機意識を持つことは重要です。そして「まず第一に自分の生命を守る」。この基本あつてこそ、避難所での住民協力へと繋がって行きます。

3時間ほどの短時間でしたが、参加者はそれぞれに感じることが多かったのではないのでしょうか。

参加者からの感想は？

- ◆「自分が死なない」ことの重要性を感じた(複数)
- ◆実際に避難したときの大変さが分かった
- ◆参加者が全て役割を決めて取り組んでいた。このような研修はとても有意義であった
- ◆実体験の話はよりリアルで、今後地区への災害に対する不安が高まったのと同時に、準備の必要性を強く感じ
- ◆筑摩小で2回避難所訓練をやった経験が役立つ
- ◆この研修をどう活用するか
- ◆町会の会議の中や飲み会の中で、多くの人に体験したことを話せる。万一の時、活用できると思う
- ◆ドリム庄内、防災運動会にもゲームとして取り入れられると思う
- ◆地域住民にテキストの内容を周知させたい
- ◆課題と感じていること
- ◆役員が高齢者中心で若い人が少ない。高齢者や体が不自由な方をどう避難させるのか
- ◆できるだけ小さな集団で体験し、意識の共有が求められると思う

生活の不便利さ? 運転への怖さ? 考えをせられる高齢ドライバーの運転免許自主返納

近年、高齢ドライバーによる痛ましい事故が立て続けに発生し、大きな社会問題となっている。庄内地区においても心配になるところだ。

今回の館報では、高齢ドライバーと免許返納について特集を組んだ。

返納を考えたためらってしまっ。車中の日常生活

現代社会で車を必要としな
いのは、公共交通機関が整備
された大都会だけで、地方で
は、どこへ行くにも、何をす
るにも車がなければ生活でき
ない。多くの高齢ドライバー
は、「農作業で車を使ってい
る」、「高齢で一人暮らしなの
で、車がないと暮らせない」
といった日常生活に直結した
悩みの他、「好きな時に好き
な所へ行けなくなるのが寂し
い」、「運転免許証を自主返納
する話を聞くと、暮らしのこ
とを考えるとためらいが」と
いう意見も。さらに、70歳を
過ぎると運転免許証を更新し
ていくハードルも上がってい
く……。高齢ドライバーは、
当たり前の日常を暮らしてい
くため、やむを得ず車を使っ
ているのだ。

運転免許証の自主返納を決意した方々は?

それでは、運転免許証を自
主返納した方々は、どのよう
な思いだったのだろうか?

例えば、今まで無事故無違
反だったが、ふとしたことで
自損事故を起こしてしまった
ことを機に運転をやめること
を決意した方や、ゴールド免
許のまま自主返納をした方が
いるとか。自主返納の相談や
返納数も、年々増えているの
だという。しかし、運転免許
証の自主返納は、特別な理由
がない限り、人それぞれの任
意である。従前の不安や問題
点が解決されなければ、返納
した方々はどう生活してい
くのか?

車がなくても生活できるよ うに。市の施策と「運転経歴証 明書」

松本市では、「福祉1000
円バス」事業があり、市内在
住で満70歳以上の方や、各種
福祉手帳等をお持ちの方は、
松本市内のバス路線と西部地
域コミュニティバス、上高地
線電車全線が一乗車1000円
で利用できる。
そして、運転免許の自主返

納をした方は、有料だが手続
きを踏むことで運転経歴証明
書の交付を受けられる。

運転経歴証明書は金融機関
での身分証明書に利用できる
他、県タクシー協会事業者登
録されたタクシー会社であれ
ば、料金が割引になる制
度もある。ただし、更新手続
きをしないで免許が失効して
しまつてからは運転経歴証
明書の発行はできないので注
意が必要だ。

また、相談窓口も、市だけ
でなく、松本警察署でも受付
が可能だ。庄内交番からも、
少しでも運転に不安を覚えた
り、生活の不安を感じたりし
たら、どんなことでもいいの
で相談してほしいとのことだ。

車のない生活について、もう 一度考えてみよう

さて、様々な制度はあるも
の、それらは人それぞれの
生活に合ったものだろうか?

買い物については、生活用
品や食料は通販や宅配サービ
スを活用し、それ以外は友人
らと乗り合い等で楽しい買い
物に出かける方もいるよう
だ。どうしても車が必要な場
合であれば、通行ルートや時
間帯を点検することで、危険
回避やリスク低減の可能性を
追求していきたい。

また、車の維持費はどうだ
ろうか? 購入費用、車検、
保険代や燃料代等の維持費
と、タクシーや公共交通機関
にかかる費用のどちらの負担
が少ないのか?

しかし、このような事項を
自分だけで判断するのは大変
なことである。可能であれ
ば家族、友人、その他様々な
行政機関等に相談することが
大切ではないだろうか。

終わりに

今回の取材を通じ、自治体
の考えは、高齢ドライバーに
はできるだけ免許を返納して
ほしいということを感じた。

また、ある返納者からは「不
安に思いながら運転するよ
り、(免許を返納したこと)で
気が楽になった」という発言
もある。車は便利であるが、
同時に交通事故というリスク
も抱えている。

子供をはじめとする交通弱
者を守るためにも、一人ひと
りが我が事として考えていき
たい。

取材協力・各相談先

庄内交番

☎0263・25・4433

松本市交通安全・都市交通課

及び松本市高齢福祉課

☎0263・34・3000

(代表)



私の父が「誕生日を迎える
前に運転免許の返納をしたい」
と言い出した。年齢的には、
とうに返納を考える時期を過
ぎており、自分から言い出し
てくれてとても安心した。

以前新聞の特集に、運転免
許返納に関する記事が出てい
たことを思い出した。そこに
は、家族が高齢者の親に返納
を促したところ、なかなか理
解されず返納に至らないこと
が多いとのことだった。

最近、高齢者ドライバーに
よる大きな交通事故が多発
し、社会問題化してきている。
そんな点から返納を進める必
要性は大切なことは十分理解
できる。その反面、返納後の
買物や通院などの生活支援も
同時に考慮する必要もあるの
ではないかとも感じる。

さらに外出機会が減り、家
に閉じこもりがちになると、
少々発展的だが、それが要因
となり、認知症の発症リスク
が高まることも考えられる。

卵が先か鶏が先か…ではな
いが、返納を促すと同時に返
納後の生活環境面のサポート
まで、家族、隣人、地域、行
政含め、幅広い対策が求めら
れるのではないだろうか。(m)